神農感應丸主治

此薬ハ。ちゞみたるきをのべ。しぶりのつかへをひらきてやく。食をすゝむる
ふきやく。かくらん。てんかん。しやくじゆ。ぢびやう。むしばら。疝気。心痛腸痛
風疹。中風。中寒。これら急病にハ一粒づゝさゆにて湯に入てよくときて用べし
負傷一切の食毒にあたり心あしき時ハ是又用ゆべし
何の病によらず大病となりてむつかしき症にはかならず大切の病に用ひてよし
たとへバくすりを用ひ何を用ひてもさからひ候時ハ一粒も二粒もたてつゞけ用ひてよし
ざきやくいたしてひへて急症となりたらバ[illegible]用ゆ
あたりに用ひてよし。他國より人此薬ヲたのみ来るにハ用ひのこらず又用ひ
口中よりたもひある時ハたびやうをとうけすてんやうのあうたすよりきまう心おも時ハ
又ハ情のつきたる時ハふようじんにて用ひ 病人をかんびやうなどする時此
薬を用ひのみハ少しもあたる事なし。元来のゑき病ハ多く此薬にて口中ニ用ひよし
耳のいたみあるにもよし。むしどのいたみあるによし 痔漏 脱肛 下疳のいたみによし
おなかいたみある時ハさらにいたみとまり さんじき動あり。これも同じく産後のきやく産前後によし
あんざんの時ハ一粒口中ニて 湯二三盃のみて甚よし
さりとて 横ざんによし。あしき時は二粒ほどそつけ用ひて大に効あり さんで
月経ひよのり。急なる時ハたちまちにぬり。くすりにぬりてよし。さんごのち
なくばうしさろのはよし。さんどくのいたみよし。さんびやうのひかた。
孫のびやうによし 産後ハ三七日まで一七二十或ハ
人の症によりて三七日ほども身をいたわり大切に いたし飲食のあさき人ハなほよ
のむべからず毒なる病となりてわくらひのなり。たまへを用ゆべきちの
病ひとつのあたり此症あらば此薬をとりて用ひてよし
小児又かんによし。此ちの用ひて薬よし。小児とものいたみ食をきらひによし
小児いたもえてしかも病風おかしによし。病おこりて用ひてよし 子すは
つよく用ひてもおこるす。 薬をのむ子ハ何にても此のまぜ入にて用ひ
乳のみ子ほどのものハ口中よりそくおみつだともに口よりまぜて
うぬるものをおちたるあくぬりて風ひかずして此病をふせぐみおだ
さいくぬりてよし小児口中ものんどのいたみ。みてもきにへてたいどく
それよりぬりてよし。どくだのさしたる時もぬりてよし

右御薬調合の意趣ハ醫師薬店もなき在郷の御里又ハ旅宿舟泊の人く急症あらん時の一助にやあらんとなり

正徳四甲午歳正月吉祥日 法橋寶壽堂調合